

校内資料

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成 16 年度

在学生・教員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書（抜粋）]

金沢工業高等専門学校

平成 16 年度 K T C 総合アンケート調査結果について

期待の 21 世紀を迎えて早くも 5 年目、経済・社会情勢が大きく変わりつつあるなか、高等教育においても、さまざまな改革がめまぐるしいテンポで進行し、戦後の新教育制度導入以来の大きな変革期を迎えている。平成 16 年 4 月に国立の大学・高専の独立行政法人化がなされ、専門職大学院である法科大学院が開設され、そして 21 世紀 COE プログラム、現代的教育ニーズ支援プログラムなど新たな取組も実施されている。これら一連の高等教育改革における重要な理念の一つは、質の保証のための多元的な「評価システムの確立」である。

高等教育機関における評価は、平成 3 年の大学・高等専門学校設置基準改定の際の、「自己・点検評価に努める」の導入に端を発する。その後の大学審議会答申などを経て、平成 14 年 11 月に学校教育法が改定され、平成 16 年 4 月に新たに認証評価制度の導入と評価機関による 7 年に 1 回の評価が義務づけられた。本校は、この法律に従い、平成 16 年に独立行政法人大学評価学位授与機構（以下授与機構）による機関別認証評価（試行）を受けた。第三者評価を受けることは初めての体験であり、戸惑うことも多かったが、授与機構の定めた 11 の基準を満たすとの結果を得たことは喜ばしいことであった。

ところで本校は、この評価を受ける前年の平成 15 年度末に、全校学生、卒業生とその就職企業、教職員を対象とする総合アンケート（内容は、授業、教員、学生生活、施設設備など本校の教育全般）と全校学生を対象とする授業アンケートを実施した。このような大がかりなアンケート調査は初めてのことであったが、本校の教育全般について多くの反省材料を得ることができた。その後の 1 年間、このアンケート調査の結果を踏まえ、教育全般の改善を心がけてきた。そして今回、第 2 回目のアンケート調査を行った。本調査結果は、これらの調査のうちで総合アンケート（今回は卒業生と企業対象のアンケートは今回実施せず 4 年後に実施の予定）の結果をまとめたものである。

授業アンケートなどアンケートをとることの意義については次のように考える。製造業を営む会社を例にとると、つくった製品を売りたいときパンフレットを見て気に入ったら買ってもらう。そして使ってみて不満があれば、会社に伝えてもらい、改善・改良を行う。学校の授業なら、教育はまさに製品にあたり、アンケートは、ユーザが製品を使ってみてのクレームなり意見にあたる。従って、アンケート結果を真摯に受け止め、改善を図ることは極めて重要である。

前回に引き続き、今回のアンケート結果を踏まえ更なる教育の改善を計ってゆきたい。読者の皆様からご批判なり、ご意見がいただければ誠に幸いである。

金沢工業高等専門学校
校長 堀 岡 雅 清

<1-1> 全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- また、この調査企画では教職員にも金沢高専の評価を聞き、学生との意識の違いを見いだすことで、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は、将来的に継続して実施していくことで金沢高専の評価の変化を時系列で確認することを前提として設計している。今回は平成15年度の調査に続く2回目であり、時系列による状況の変化を把握することが可能となる。

■調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容
調査概略	調査票による自記入式調査とした。(配布方法は下記の通り、学内での配布と郵送式) なお、全て無記名式とした。
総回収数	総回収数は649サンプル(去年は811サンプル。ただし、卒業生、企業担当者も含む。詳細は後述)
対象者と実施方法	1年生～4年生 ・ 終業式前に配布し、学内で回収した。(配布:2月18日、回収締切:2月18日) ・ 有効回答数 1年生:135サンプル、2年生135サンプル、3年生98サンプル、4年生109サンプル
	5年生 ・ 卒業式前に配布し、学内で回収した。(配布:2月10日、回収締切:2月10日) ・ 有効回答数 116サンプル
	卒業生 ・ 今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
	教職員 ・ 終業式前に配布し、学内で回収した。(配布:1月28日、回収締切:2月14日) ・ 有効回答数 56サンプル
	企業担当者 ・ 今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計	有限会社 アイ・ポイント

■調査内容

各属性別に実施した主な調査項目は下記の通り。

質問分野	質問形式	1年	2年	3年	4年	5年	教職員
授業に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	●
教員に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	×
学生生活の過ごし方に関して	選択肢	●	●	●	●	●	×
学生生活に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	×
施設や設備などに関して	自由記述	●	●	●	●	●	●
金沢高専に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	●
就職・進学に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	●	●	×
人材像に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	×	●	●
教員業務に関して	選択肢式	×	×	×	×	×	●
KIT-IDEALSに関して	選択肢式	×	×	×	×	×	●

■集計に関して

今回の調査結果は基本的に下記の方針で集計、分析を行っている。ただし、これらの内容と異なる際には各ページに注意書きをつけている。

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では選択肢が、「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。
昨年との比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> 幾つかの項目で昨年度との比較を行ったが、調査対象者の違い、集計に含める範囲の違いなどにより、同じ切り口の集計結果でも結果が昨年度のものとなるものがある。 特に、昨年度は卒業生が対象者であったので、学校の評価として卒業生の回答結果も集計に加えていたが、今回は対象ではないため集計には加えていない。また、昨年度は教職員を加えて集計していた点に関しても、純粋な学生の意見を見るために今年度は加えていない点などがある。 ただし、今年度の集計に関しては、全て集計対象者を統一しており、同一条件で比較できるものとなっている。

■回答者数の昨年比

昨年度との回答者数の比較は下記の通りであり、この間で比較を行った。

学年	昨年度回答者数	今年度回答者数	増減
1年	140人	135人	-5人
2年	127人	135人	+8人
3年	113人	98人	-15人
4年	121人	109人	-12人
5年	129人	116人	-13人
卒業生	66人	0人(実施せず)	-66人
教職員	50人	56人	+6人
企業担当者	65人	0人(実施せず)	-65人
合計	811人	649人	-162人

■カイ2乗検定に関して

この調査では、学年毎、学科毎などでクロス集計を行っており、その属性間の傾向を探っているが、そこで統計的にその傾向を確認する方法として「カイ2乗検定」という方法を使っている。

学年別にクロス集計を行うと学年の違いによって何らかの傾向が見られるが、どのような設問に於いても必ず差があるとは言い切れない。特に対象者が少なくなると偶然に差がでることも考えられる。その偶然性を統計的に判断するのが検定であり、今回の集計では複数の選択肢同士のクロス集計なので「カイ2乗検定」という手法を採用している。

「カイ2乗検定」の結果は「有意差あり」「有意差なし」の2つに分類され、「有意差あり」とはクロス集計した変数の間に何らかの関係性があるということであり、「有意差なし」とは実際の数値的に差はあるが、その差はグループの特性によって出たものとは言い切れないということになる。

ここで注意しなければならないのは、「有意差なし」と判断されるということは、「2つの変数の間に関係がない」と言い切れるものではなく、「2つの変数の間に関係があると積極的に判断できない」という解釈となることである。

一般的に100人規模のサンプル数ではクロス集計において20ポイント以上の差がなければ「有意差あり」とならない。また、400人規模のサンプル数であれば10ポイントの差で「有意差あり」となるという目安がある。

本調査はSPSSという統計ソフトでクロス集計を行い、カイ2乗検定を行っており、5%水準で有意差の有無を判断している。5%水準とは検定の結果が間違っている危険性が5%あるということであり、統計学では一般的に5%水準で検定することが慣例となっている。

<1-2> 回答者の基本属性

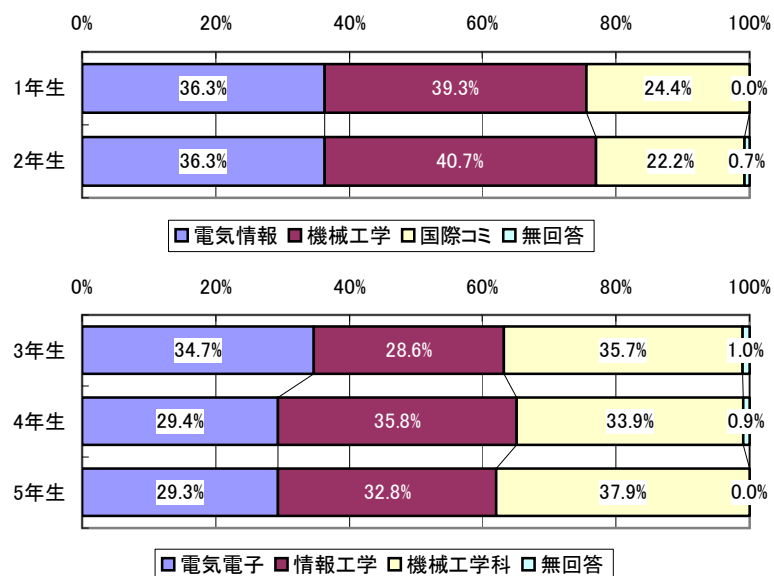
■回答者全体像

- 各属性毎の回答者数は下記の通りであった。
- 在学生の所属学科を見ると、学科再編後の1～2年生では各学科の割合はほとんど同じであった。学科再編前では3年生で「電気電子」が多くて「情報工学」が少なめであった。

■学年、属性別回答者数内訳

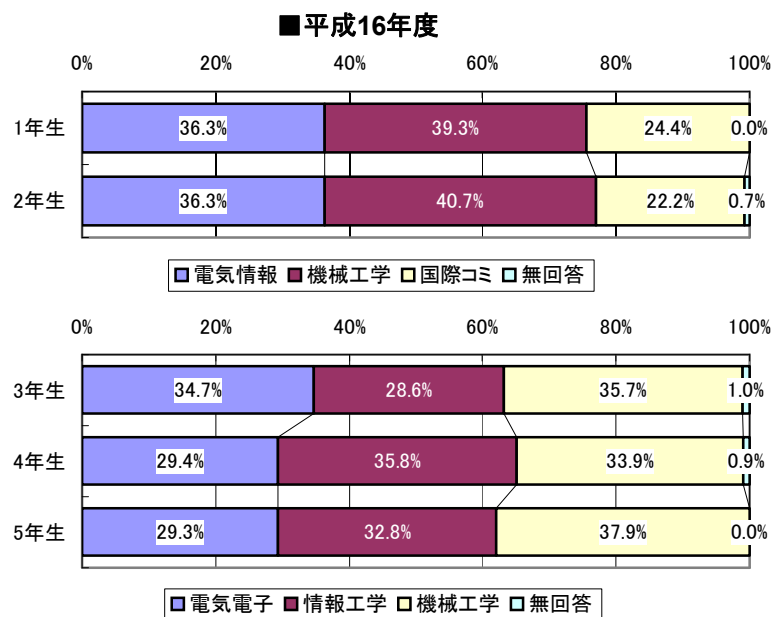
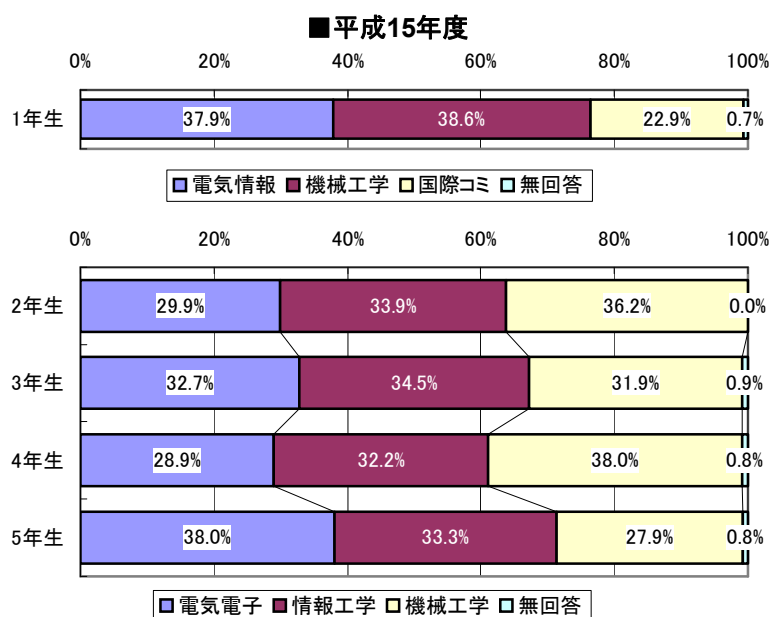
学年	学科	小計	合計
1年生	電気情報工学科	49	135
	機械工学科	53	
	国際コミュニケーション情報工学科	33	
	無回答	0	
2年生	電気情報工学科	49	135
	機械工学科	55	
	国際コミュニケーション情報工学科	30	
	無回答	1	
3年生	電気工学科(電気電子コース)	34	98
	電気工学科(情報工学コース)	28	
	機械工学科	35	
	無回答	1	
4年生	電気工学科(電気電子コース)	32	109
	電気工学科(情報工学コース)	39	
	機械工学科	37	
	無回答	1	
5年生	電気工学科(電気電子コース)	34	116
	電気工学科(情報工学コース)	38	
	機械工学科	44	
	無回答	0	
教職員			56
総計			649

■所属学科



■昨年度と今年度の学科の比較

- 昨年度と今年度との学科構成の差を比較すると下記のグラフようになる。
- 本報告書で昨年度の結果と今年度の結果を比較する際には、「昨年度の1年生と今年度の1年生」で比較を行い、学年を跨って同じ学生群同士で比較することは行わなかった。
- 今回の場合、2年生以外は学科再編の影響は受けないが、2年生に関しても学科の変更による影響があることを了解して比較を行った。
- また、学年に関係なく学科同士の比較を行う際、学科再編前後の学科同士を合わせて集計を行った。厳密には学科の違いによる差が含まれてしまうため詳細な分析までは行わず、基本的な集計にとどめている。

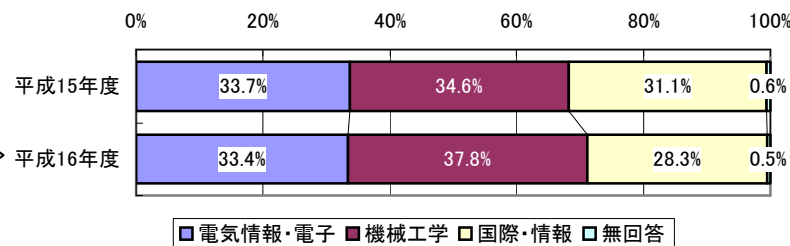


比較
(学科再編の影響あり)

■学科の表記と、学科分類

1～2年生		3～5年生		共通略称
正式名称	略称	正式名称	略称	
電気情報工学科	電気情報	電気工学科 (電気電子コース)	電気電子	電気情報・電子
機械工学科	機械工学	機械工学科	機械工学	機械工学
国際コミュニケーション 情報工学科	国際コミ	電気工学科 (情報工学コース)	情報工学	国際・情報

■一本化した学科の割合比較



■金沢高専の満足度に関するまとめ

「学生生活が充実している」と回答した学生は全体の半数。

- 「学生生活が充実している」と回答していた学生は50.8%と全体の半数であった。
- 「学生生活の充実」は満足度と同様な意味と考えられるが、そうすると現在の金沢高専に満足している学生は全体の半数ということになる。
- 「目標」「愛着」「誇り」という項目では肯定的意見は30～40%台であった。

昨年度と比較すると全ての項目において評価は高くなり、満足度は向上していると言える。

- 昨年度の加重平均と比較すると全ての項目で昨年度の結果を上回った。
- 差は少ないものの「目標に近づいている」が最も向上しており、次いで「学生生活は充実している」が続いていた。

今年度は1年生の満足度が高く、2～3年生が中程度、4～5年生が低かった。

- 学年による満足度の傾向は昨年度との比較で新たな傾向が見られたが、今年度に限定すると1年生の満足度が高い点が目立った。
- そして、2年生で満足度が低下して3年生も同程度、その後、4年生で一層低くなり5年生も同程度という状況であった。

学年が向上するにつれて満足度が変化するのではなく、満足度が高い学年は学年が上がっても満足度が高いままであった。

- 1年生から2年生に上がる時に満足度が下がる傾向はあるが、それ以降は学年が上がることで満足度が下がるという相関関係はなさそうであった。
- 学年毎の昨年度との比較を見ると、「ある年に入学した学生群の特徴は当初からある程度固まっており、学年の上昇によってそれほど大きく変わらない」という仮説が考えられそうであった。

「機械工学」は新学科でも旧学科でも満足度が高めであった。

- 1～2年生の新学科では、「機械工学」の満足度の高さが突出しており、非常に満足していることが分かった。次いで「国際コミ」「電気情報」の順であった。
- 3～5年生の旧学科でも「機械工学」の満足度が少し高めであり、次いで「電気電子」「情報工学」という順であった。
- 昨年度も同じであったが、「機械工学」の満足度の高さが確認できた。

■授業の満足度に関するまとめ

**全体で満足度が高いのは「英語」「一般科目」
3～5年限定の「校外実習」「国際交流活動」も満足度が高い。**

- 最も満足度が高かったのは「英語」で、69.5%が満足しており、全学年対象の授業としては「一般科目」の満足度が「英語」に次いでいた。
- その他では「校外実習」「国際交流活動」「卒業研究」といった3～5年生限定の授業の満足度が高く、より実践的で専門的な授業の満足度が高いことが分かる。

**不満足の方が多かったのは
「穴水湾自然学苑での研修」と「ショートホームルーム」の2つ。**

- 「穴水湾自然学苑での研修」と「ショートホームルーム」は、満足という回答が4割に足りず、加重平均ではマイナスとなった。
- 上記は2つとも通常の授業ではないが、学校の方針や考え方を伝える大事な場であるため、原因を解明して学生の意識を変えていく工夫が必要である。

**授業によって異なるが、学年が上がるにつれて満足度は
低下していた。特に「数学」で顕著であった。**

- 1年生は全般的に満足度が高く、2年生が平均より少し高め、3～5年生が平均より少し低めであり、学年が上がるにつれて満足度が下がる傾向があった。
- 「数学」は学年による差が非常に大きく、高学年ほど満足度は確実に低下していた。内容が難しくなる、理解できなくなるという要因があると思われる。
- 「ハンズオン」「一般科目」などは学年による差が少なかった。

**1～2年生は学科による満足度に差があり「機械工学」の満足度
が高かったが、3～5年生は学科による差が少なかった。**

- 1～2年生では全般的に「機械工学」の満足度が高く、特に「ハンズオン」「ショートホームルーム」「穴水湾」といった授業の満足度が高かった。
- また、「電気情報」は「数学」の満足度が高く、「国際コミ」は概ね平均と同程度であった。
- 3～5年生は学科間で授業満足度に大きな差は見られなかった。

**多くの授業が昨年度より良い評価を受けており、
中でも「英語」の評価が最も上がっていた。**

- 「ハンズオン」「国際交流活動」「資格取得サポート」以外は昨年度より評価が上がっていた。
- 今年度の3年生で「英語」の満足度が大幅に上がっていた。これは「英語」の満足度が高い昨年度の2年生がそのまま学年が上がったことが影響している。
- 「英語」に関しては上記のような「英語好きな学年」が存在するようであったが、他の授業では学年が上がると満足度が下がるという傾向のようであった。

**教職員が予想するほど授業には満足していない。
特に「資格取得サポート」「ハンズオン」で意識の差が大きい。**

- 「数学」「一般科目」は学生の満足度としては高くないが、教職員が予想するよりも学生の評価の方が高かった。
- 上記以外は教職員が予想するほど満足度は高くなく、「資格取得サポート」「ハンズオン」といった金沢高専の特徴的な部分は、教職員が考えているよりも学生の満足度がかなり低かった。

■教員の評価のまとめ

**「授業時間外も質問に答えてくれる」
「開始から終了のチャイムまで～」という教員は多い。**

- 「授業時間外も質問に対して丁寧に答えてくれる」「開始から終了のチャイムまできちんと授業をする」という先生はたくさんいるという評価であった。
- これを見ると、基本的な授業への取り組みに関しては学生の評価も高いといえる。

**「気軽に相談できる」「意欲的にさせる」「課外活動に熱心」
「人間的に尊敬できる」「もう一度教わりたい」先生は少ない。**

- 教員の評価に関しては全体的に厳しいものであったが、上記の5項目の評価は特に厳しく、それらの先生がいるという意見は3割以下であった。
- 特に「勉強以外の面でも気軽に相談できる」に関してが低く、教員との間にあまり親近感を抱けていないのではないかと考えられた。

**教員評価に関しては学年による差が明確に現れており、
学年が上がるほど厳しい評価となっていた。**

- 1年生は全般的に教員の評価が高いが、2年生でかなり低下し、3～5年生で徐々に低下している傾向が見られた。
- 学年による差が大きいのは「授業への取り組みが熱心」「もう一度教わりたい」の2点であり、これは学年によって意見が分かれる点であった。

**1～2年生では「機械工学」が教員を高く評価しており、
3～5年生は学科による差が少なかった。**

- 低学年である1～2年生は全般的に教員評価が高かった。特に「機械工学」が全般的に教員を高く評価していた。
- 3～5年生は学科による差が少なかったが、「機械工学」が他学科よりわずかに高く教員を評価していた。

**昨年度との比較を見ると多くの項目で昨年より上がっており、
教員の評価は良くなっていることがうかがえる。**

- 全体の傾向で見ると「授業時間外も質問に対して丁寧に答えてくれる」「課外活動への取り組みが熱心」の2項目は昨年度よりもマイナスであったが、残りは全てプラスであった。
- 特に「研究への取り組み」「授業への取り組み」「もう一度教わりたい」といった項目で大きくプラスとなっていた。

今年度の1年生は非常に高く教員を評価していた。

- 昨年度も1年生の教員に対する評価は高かったが、今年度は突出しており、昨年度との比較では非常に目立っていた。
- 全般的に1年生の評価は高いが、今年度の1年生の評価は特徴的であり、これがどのように変わっていくのかは興味がある点である。

■ 学生生活の満足度のまとめ

友人関係は非常に充実している。

- 学生生活に関して「友人関係が充実している」と回答したのは全体の77.3%であり、友人関係は非常に充実しているものと思われる。
- また、「クラスの雰囲気は自分に合っている」は56.7%、「クラスが良くまとまっている」は47.4%であり、クラスに関しては半数程度は良いと思っているようであった。

「学校行事」「クラブ活動」といった課外活動の満足度は低い。

- 「高専祭、体育大会、意見発表会等の行事」「クラブ活動」等の課外活動に関しては、満足しているという意見は4割程度だった。
- 「クラスが良くまとまっている」に関しては、そう思うという意見は半数程度であった。友人活動は充実していることから、クラスの中でも自分の周囲のまともりは良いが、クラス全体で見るとそうとも言い切れない状況が考えられる。

学生生活に関しては学年による明確な傾向は見られなかったが、4～5年生の満足度がやや低めであった。

- 「友人関係」「クラスの雰囲気と自分との合致」「クラスのまとまり」に関しては4～5年生の満足度がやや低いが、学年による差はそれほど大きくはない。
- その他の質問では、1年生は「学校行事」に非常に満足していることが確認できた。また、4年生は「クラブ活動」と「学校行事」に対する満足度が非常に低いことが確認できた。
- 他の分野では1年生の満足度が一般的に高めであったが、学生生活に関してはその限りではなかった。

1～2年生では「機械工学(新)」が全項目で満足度が高く、3～5年生の「情報工学(旧)」の満足度が最も低かった。

- 「機械工学(新)」は全体で見ても最も満足度が高く、特にクラスが良くまとまっているようであった。そして、1～2年生の「電気情報」「国際コミ」は満足度が低く、3～5年生を下回るものも多く見られた。
- 「情報工学(旧)」は全体を通して満足度が最も低かった。そして、「電気電子(旧)」は「クラスの雰囲気」「クラスのまとまり」がかなり高めであった。

クラスのまとまりは学科で大きな差が見られ、低学年にまとまりがあるという訳ではなかった。

- クラスのまとまりは学科の差が大きく、最もまとまっているのは「機械工学(新)」であったが、それに次ぐのは3～5年生の「電気電子(旧)」「機械工学(旧)」であった。
- 学生生活の満足度に関しては、低学年が高いとは限らないという傾向がここでも確認できた。

全ての項目で昨年度よりも満足度が向上している。特にクラスのまとまりはほとんどの学年で昨年比プラスであった。

- 全体の昨年比では、全項目で昨年より満足度が向上していることが分かった。「クラスが良くまとまっている」は5年生がわずかにマイナスであったが、他の学年は全てプラスであり、昨年よりまとまっていると感じていた。
- 次にプラスが多かったのは「クラブ活動」であり、「雰囲気」「学校行事」「友人関係」がそれに続いていた。
- 3年生の満足度向上が目立ったが、これは昨年度の3年生の満足度が低く、昨年度に満足度が高かった2年生が高いまま3年生になったためであると思われる。

■就職・進学指導の満足度のまとめ

**就職・進学指導に満足している学生は6割で、
決定した進路に満足している学生も6割であった。**

- 「就職・進学指導に満足している」という質問では59.1%が満足していると回答していた。そして、32.0%が不満という回答であった。
- まだ、決定していないなどがあるため「不明・無回答」が13.8%と多いが、決定した進路に満足しているという回答は61.2%であり、不満を感じているという回答は25.0%と1/4を占めた。

**先生が親身に相談に乗ってくれたと感じている
学生は7割であった。**

- 「先生が親身に相談に乗ってくれた」と感じている学生が69.4%で、不満という回答が20.9%と、教員の対応への評価は高いと言える。
- また、「就職・進学に関する情報が十分に得られた」と感じている学生は65.4%であり、それほど情報不足も感じていないようであった。

**4年生は先生が親身になってくれていると感じているが、
5年生はあまりそう感じていない。**

- 学年別の比較は「先生が親身に相談に乗ってくれた」で差が大きく、4年生の満足度は非常に高く5年生が低かった。
- 4年生は就職・進学指導が始まったばかりだが、5年生は1年間の指導の後であり、進路の変更などもあって評価が厳しくなったのではないと思われる。
- その他の項目でも4年生の満足度の方が少しずつ高かった。

**学科別には「情報工学」の満足度がやや高く、
決定した内容では学科の間で大きな差がついた。**

- 「決定した内容への満足度」に関しては学科による差が非常に大きく、最も満足していたのは「情報工学」で、次いで「電気電子」「機械工学」の順であった。
- 他に差があったのは「就職・進学指導の満足度」で、「機械工学」の満足度の低さが目立った。
- その他の項目は学科の差が少なかったが、「情報工学」がやや高めであった。

**「就職・進学指導の満足度」と「先生が親身に相談に乗ってくれた」
の2点の満足度は昨年度より大きく向上している。**

- 上記のように、「就職・進学指導の満足度」と「先生が親身に相談に乗ってくれた」に関しては4年生の満足度が昨年度より大きくアップし、5年生のマイナスがあるにも関わらず全体では向上していた。
- 5年生は他の項目も含めて全てわずかにマイナスであった。昨年度は今年度とは逆に5年生の方が評価が高かったため、大きな差が出ることになった。

■分野別満足度のまとめ

昨年度と比較すると「授業」「教員」「学生生活」「就職・進学指導」など、全ての面で昨年より学生の評価が向上している。

- 上記の通り「授業」「教員」「学生生活」「就職・進学指導」の各分野の学生評価は向上しており、充実度など「金沢高専の満足度」も向上していた。

昨年度より評価は向上しているものの、「教員」「金沢高専の満足度」はマイナス評価であった。

- 前項目のように全ての面で昨年度より評価は向上しており、特に「教員」「学生生活」「就職・進学指導」の向上が大きかった。
- 昨年度比は相対的に向上しているものの、絶対的な評価としては「教員」「高専に対する満足度」はマイナススコアであり、優先順位を上げて改善していくべき点だと思われる。

今年度の3年生は全体的に満足度が高く、5年生は全体的に満足度が低い傾向が見られた。

- 昨年度との比較では、昨年度の同学年の満足度によって今年度の動向が大きく左右されるが、今年度の3年生と5年生に特徴が見られた。
- 昨年度の3年生(現4年生)の満足度が全体的に低かった影響もあるが、今年度の3年生の満足度は高く、特に「金沢高専の満足度」「学生生活の満足度」が高く、充実した学生生活を送っているように思われる。
- また、昨年度の5年生の満足度が高かったこともあるが、今年度の5年生は全ての面で昨年度比がマイナスであった。

■充実度による比較のまとめ

学生生活が充実している学生ほど、「授業」「教員」「学生生活」の満足度が高い

- 当然の結果とも言えるが、学生生活が充実している学生ほど、授業や教員の評価が高く、友人関係なども充実している傾向が確認できた。
- 学生生活が充実している学生は、クラスの雰囲気は自分に合っていると感じており、金沢高専が好きで目標に近づいているといったことが充実感に結びついているものと思われる。

専門分野の満足度が高い学生ほど充実感を感じており、英語の満足度は充実感との関係は強くなかった。

- 学生生活が充実している学生とそうでない学生の授業満足度の差を見ると、充実している学生は「専門分野」「数学」などの満足度が高かったが、逆に、これらについていけないことが充実できない理由とも考えられる。
- 英語は充実度との関係性が少なく、学生生活が充実していてもそうでなくても英語には満足しており、授業について行けているという状況が考えられる。

充実している学生ほど「学生を意欲的にさせる先生」「授業への取り組みが熱心な先生」が多いと感じている。

- 学生生活の充実度によって教員に対する感じ方も異なっており、充実している学生ほど「学生を意欲的にさせる先生」「授業への取り組みが熱心な先生」「人間的に尊敬できる先生」が多いと感じていた。
- 充実している学生は、何人かの尊敬できて意欲的にさせられる先生を見つけているのではないかとと思われる。
- 授業の時間や進行、質問対応など、基本的な授業の進め方に関しては、充実度による差は少なかった。

<3-1> 学生の満足度に関するまとめ

■分野ごとのまとめ-1

分野	今年度の特徴	昨年度との比較
高専満足度	<ul style="list-style-type: none"> 半数は学生生活が充実していると感じている。 1年生の満足度が高く、2～3年生が中程度、4～5年生が低め。 機械工学(新旧学科とも)は満足度が高めであり、学科再編後の機械工学は特に満足度が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも高専に対する満足度はわずかではあるが向上している。 1年生から2年生に上がる時に満足度が低下する傾向は年度を問わず確認されたが、その後は学年が上がるほど一律的に満足度が低下するという相関はなさそうであった。 「学生の特徴は当初からある程度固まっており、学年の上昇によってそれほど大きく変わらない」という仮説が考えられそうであった。
授業満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学年を問わず「英語」と「一般科目」の満足度が高い。「英語」に注力している効果が現れていると言える。 「穴水湾自然学苑での研修」と「ショートホームルーム」の満足度が低い。学校の方針や考え方を伝える場であるが、学生は不満を持っている。 学年が上がるにつれて授業満足度は低下する傾向が見られた。特に「数学」で顕著であり、学年が上がるほど難しく感じているという要因があると思われる。 1～2年生では機械工学で授業満足度が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ハンズオン」「国際交流活動」「資格取得サポート」以外は昨年度より満足度が向上していた。 全体では「英語」の満足度が向上しており、何らかの改善策が有効に働いたのではないと思われる。 教職員が予想するほど授業満足度は高くなく、特に「資格取得サポート」「ハンズオン」で意識の差が大きかった。「ハンズオン」はKTCの特徴であり、実態をより詳細に知る必要があると思われる。 授業においても、昨年度に「英語」の満足度が高かった2年生が満足度の高いまま3年生になっている状況が確認された。ただし、英語以外では学年が上がるほど授業満足度が下がっている傾向が見られる。
教員評価	<ul style="list-style-type: none"> チャイムを守ってきちんと授業を行い、授業時間外も質問に答えるなど、授業を中心とした基本的な対応には満足している。 一方、人間的に尊敬できて、勉強以外での相談ができたり課外活動に熱心で学生を意欲的にさせるといった、授業以外の面では満足しているとは言えない結果であった。 教員評価に関しては、学年が上がるほど厳しくなる傾向が見られた。 教員評価に関しても、1～2年生では機械工学の満足度が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業時間外も質問に答えてくれる」「課外活動に熱心」の2点以外は昨年度よりも評価が上がっており、教員に対する評価は全体的に向上していると言える。 特に「授業への取り組み」「もう一度教わりたい」という面で大きくプラスになっており、何らかの改善策が効いていると思われる。 教員の評価では今年度の1年生の評価が高い点が目立っていた。全般的に1年生の評価は高いが、今年度の1年生の評価は特徴的であり、これがどのように変わっていくのかは興味があるである。

■分野ごとのまとめ-2

分野	今年度の特徴	昨年度との比較
<p>学生生活満足度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友人関係は非常に充実しているが、クラスの雰囲気などに満足している学生は半数程度であり、自分の周囲の友人関係は良好であるが、クラスのまとまりには少し不満を持っている様子であった。 高専祭、体育大会、意見発表会やクラブ活動など、課外活動に対する満足度はあまり高くなかった。 学生生活は、学年が上がるにつれて変わっていくような傾向は見られなかったが、4～5年生は少し満足度が低めであった。 他の分野では1年生の満足度が高く、2年生で低下してその後は徐々に変わっていくという傾向が見られたが、学生生活に関しては学年による明確な傾向は見られなかった。ただし、1年生は学校行事の満足度が高かった。 クラスのまとまりという面で見ると、「機械工学(新)」が最も良くまとまっており、次いで「電気電子(旧)」「機械工学(旧)」という順であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活に関しては、全ての項目で満足度が向上していた。 クラスのまとまりに関しては、5年生は昨年度の同学年よりも少しマイナスであったが、他の学年は全てプラスであった。 特に3年生の満足度向上が目立ったが、これは昨年度の3年生の満足度が低く、昨年度に満足度が高かった2年生が高いまま3年生になって、高い評価が続いているものと思われる。
<p>就職・進学指導満足度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職・進学指導に満足している学生は全体の6割であり、決定した進路に対する満足度も6割であった。 先生が親身になってくれていると感じている学生は7割であり、学生は就職・進学指導では教員のことを信頼していると言える。ただし、この項目では4年生の満足度が高く5年生が低い。1年間指導を受けた後に満足度が低下していることになる。 決定した進路に関しては「情報工学」の満足度が高く、次いで「電気電子」「機械工学」の順であった。また、就職・進学指導の満足度は「機械工学」の低さが目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「就職・進学指導の満足度」と「先生が親身に相談に乗ってくれた」の2点は昨年度より大きく向上していた。 今年度の5年生は他の項目も含めて全てわずかにマイナスであった。昨年度は今年度とは逆に5年生の方が評価が高かったため、大きな差が出ることになった。

■学年ごとのまとめ

分野	今年度の特徴
一年生	<ul style="list-style-type: none"> 「高専の満足度」「教員の評価」「授業の満足度」は他学年と比較して全ての項目で満足度、評価が高く、特に授業では「数学」「穴水湾自然学苑での研修」の高さが目立った。 「学生生活」では「学校行事」の満足度は高かったが、友人関係やクラスに関する評価は他学年と変わらなかった。 今年度の1年生は昨年度の1年生と比較して「教員の評価」が高い点が目立ったが、他の分野は昨年度と大きく変わらなかった。
二年生	<ul style="list-style-type: none"> 大多数の分野で1年生で高かった評価や満足度が2年生で急落し、2年生以降の変動はそれほど大きくないという傾向が見られた。調査時期を考えると2年生はほぼ2年間の学生生活を過ごした後であり、その時期には不満が明確になっているようであった。 今年度の2年生は全般的に中間的な満足度であった。しかし、昨年度の2年生(現3年生)の満足度が高めであったため、それと比較することで低さが目立った点があった。昨年比で低かったのは「金沢高専に対する誇り」「クラスの雰囲気」や授業の「英語」「資格サポート」など。
三年生	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の3年生の評価は2年生と比較してもあまり下がっておらず、学年が上がるにつれて評価が厳しくなる傾向は見られなかった。 昨年度の3年生(現4年生)が全体的に満足度が低く、今年度の3年生が中間程度の満足度であったため、昨年比では3年生の満足度が大幅に向上する結果となった。 分野別では「学生生活の充実」「金沢高専が好き」といった学校に対する意識が上がっており、「友人関係は充実してクラスもまとまっており、課外活動にも積極的に取り組めて充実した学生生活が送れている」といった状況がうかがえる。 また、授業では昨年度の2年生の時から継続的に「英語」の満足度が高く、「英語好きな学年」なのではないかと思われた。 ただし、教員に対する評価は昨年度と大きく変わっていなかった。
四年生	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は1年生で高い評価が、2年生で低下して3年生が同程度であり、4年生でもう一段低下して5年生まで継続するという傾向であり、4年生は全体的に低かった。 4年生はあまり大きな特徴は見られなかったが、授業では「ショートホームルーム」「ハンズオン教育」の満足度が昨年比で向上していた。 また、4年生と5年生だけであったが、「就職・進学指導」の評価は昨年より向上していた。
五年生	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の調査では1年生から4年生にかけて満足度が低下し、5年生では卒業を控えて満足度が上昇する傾向が見られたが、今年度の5年生は4年生と同程度であり、再上昇する傾向は見られず、幾つかの分野では満足度が低い4年生の評価がそのまま5年生でも低い状況であった。 特に「学生生活の充実」「金沢高専が好き」「友人関係が充実している」といった面で昨年より大きく低下していることが確認できた。また、「就職・進学指導」も低下していた。 ただし、「教員の評価」「授業の満足度」に関してはそれほど大きな低下は見られなかった。

■学科ごとのまとめ

分野	今年度の特徴
一 年 生 ～ 二 年 生	<ul style="list-style-type: none"> • 新学科は1～2年生の低学年が中心となるので、学年別の傾向の通り全体的に満足度は高めとなった。 • 「機械工学」は全ての分野のほとんどの項目で満足度が最も高く、学生生活も授業の内容も非常に良い状態にあり、教員の評価も高いという傾向にあった。「機械工学」の学生はクラスのまとまりも良く非常に有意義な学生生活を過ごしているものと思われ、その要因を探っていくことで何らかのヒントが得られる可能性もあり、今後の着目ポイントになる。 • 「機械工学」は授業において「ハンズオン教育」や「ショートホームルーム」「穴水湾自然学苑」といった課外授業の満足度が高かった。 • 「国際コミ」「電気情報」の間にはあまり大きな差は見られず、3～5年生よりも少し満足度が高いといった状況であった。
三 年 生 ～ 五 年 生	<ul style="list-style-type: none"> • 1～2年生の「機械工学」ほど突出しているわけではないが、3～5年生でも「機械工学」の満足度が高いケースが目立った。 • ただし、「就職・進学指導」に関しては「機械工学」の満足度が低めであり、「決定した内容への満足度」「就職・進学指導の満足度」では「機械工学」の満足度の低さが目立った。 • 多くの分野で1～2年生の方が3～5年生よりも満足度が高い傾向にあったが、「クラスのまとまり」はその傾向にはなく、最もまとまっているのは「機械工学(新)」であったが、それに次ぐのは3～5年生の「電気電子(旧)」「機械工学(旧)」であった。

■充実度による比較のまとめ

分野	特徴
充実している	<ul style="list-style-type: none"> • 当然の結果とも言えるが、学生生活が充実している学生ほど、授業や教員の評価が高く、友人関係なども充実している傾向が確認できた。 • 専門分野の満足度が高い学生ほど充実感を感じていることから、専門分野の内容がきちんと理解できて本人の学力向上が実感できている学生の満足度が高いといった構図が考えられる。 • 充実している学生ほど「学生を意欲的にさせる先生」「授業への取り組みが熱心な先生」が多いと感じており、充実している学生は、何人かの尊敬できて意欲的にさせられる先生を見つけているのではないかと思われる。 • 学生生活が充実している学生は、クラスの雰囲気自分に合っていると感じており、金沢高専が好きで目標に近づいていると感じている。 • 以上を見ると学生生活が充実している学生は、尊敬できる先生を見つけて良い影響を受けており、専門分野の授業にも積極的に付いていており、十分理解できているようであった。そして、その自信が学生生活全体の好循環に結びついているものと思われる。
充実していない	<ul style="list-style-type: none"> • 学生生活が充実していない学生は上記と全く逆の状態であり、授業の理解不足、教員への不満、クラスの交友関係の問題といったものがキッカケとして、全てが悪循環に陥っているものと思われる。 • ただし、学生生活の充実度の違いによって差がないものもあり、「英語」の評価は高めであり、「友人関係」も充実しているという傾向が見られた。

<3-2> 今後の方針・改善策に関して

■今後の方針・改善策に関して

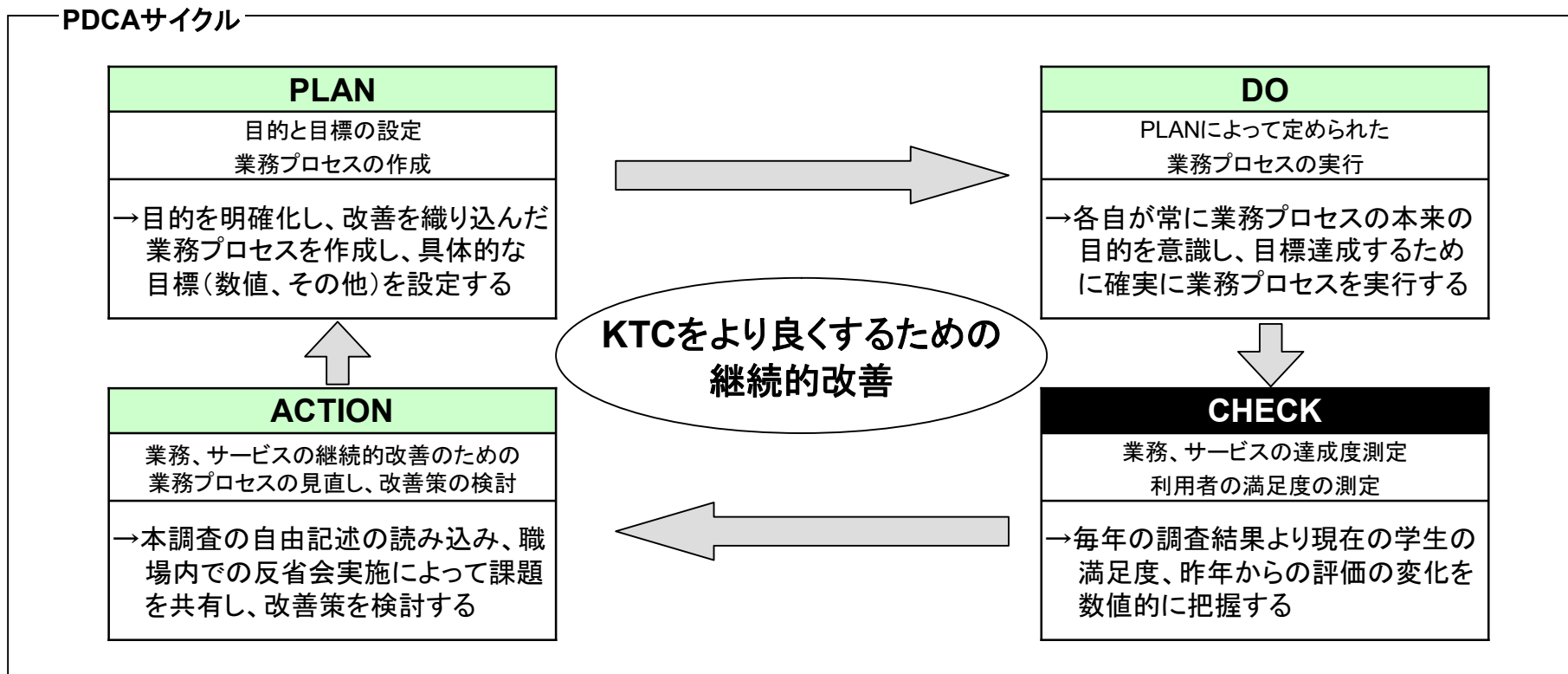
今後の方針、改善策に関しては下記のような内容が考えられる。ただし、これは調査結果から考えたものであり、高専としての方向性や優先順位は考慮していない。

テーマ	具体策・改善策など
<p>今後、分野別の改善案としては、「教員の評価」の向上の優先順位が高い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別評価では「教員の評価」が最も厳しく、優先順位を上げて対応すべきだと思われる。 ・ただし、昨年比ではプラスとなっており、学生の評価は良い方向に向かっていると言える。
<p>「穴水湾自然学苑」「ショートホームルーム」など、研修の場の充実が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「穴水湾自然学苑」「ショートホームルーム」は満足度が低く、改善の必要があると言える。 ・全体的に満足度が高かった「機械工学(新)」で上記2つの満足度が高かったが、何らかの関係性がある可能性が考えられる。 ・上記2つは授業体系や教育の考え方など、学校の方針や考え方を伝える場であり、その内容充実で学問体系全体や卒業までの課程が見えるなどの効果があると思われる。 ・KITでは学問体系が見えない点への不満が大きく、各種研修で指導しているという点は全く記憶に残っていないことが確認できたが、高専でも同様の状況が考えられる。
<p>「機械工学」の満足度が高いが、その要因の研究をすべき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続いて「機械工学」の満足度が高かった。 ・クラスの結びつきが固い、KTCの特徴であるハンズオンに直結しているなど各種の要因が考えられるが、この満足度の高さを詳細に研究することで学生全体の満足度向上に関するヒントが見つかる可能性がある。
<p>「英語」の満足度が高いが、その要因を研究すべき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語」はKTCとして力を入れている分野であり、結果として学生の満足度も非常に高く、授業として好循環に入っていると考えられる。 ・多くの授業は難しくなるなど高学年ほど満足度が下がるが「英語」は異なっており、「英語好きな学年(クラス?)」がありそうであった。 ・この好循環がどのように生まれているのかを詳細に調べていくことで、他の授業の満足度向上のためのヒントが見つかる可能性がある。
<p>各種満足度が学年の上昇に相関するのではなく、「学生の特徴は当初からある程度固まっている」という仮説の検証を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は学年が上がるほど満足度が下がる傾向が見られたが、今年度は必ずしもそうとは言えず、満足度が高いまま学年が上がっている例も見られた。 ・KITでは1～3年生の間は詰め込みがメインで達成感はなかったが、就職活動が始まって他大学の学生と比較したり、採用担当者の評価などから、自分に力がついていることを実感し、それが満足度につながっており、4年生で満足度が上昇することがインタビューで発見されたが、高専でも学生心理がどのように変化しているかを知る必要があると思われる。

<3-3> PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置付けられる。(昨年と同内容)



- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく継続的な改善を目指すものである。従って次回からは「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のように位置づけで継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

■クラスメートと自分の学生生活の過ごし方のまとめ

クラスメートは「非常に明るくて思いやりがある」と感じている。

- クラスメートの学生生活に関して「明るい」と感じている意見が76.5%と非常に多くて目立っており、次いで「思いやりがある」と評価していた。
- 逆に、クラスメートのマイナス評価として、「熱心に学んでいない」「目標を持っていない」「ルールやマナーを守っていない」という意見が見られた。

学年別では熱心さに差が見られ、 学科別では「ルールやマナーを守る」「積極性」で差が見られた。

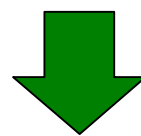
- 学年別では1、3年生が高め、4、5年生が低めであり、「熱心さ」では1年生で非常に高いものが2年生で急激に低下する傾向が見られた。同じく「積極性」「目標を持っている」も2年生での低下が目立った。
- 学科別では全般的に「情報工学(旧)」が低かった。また、「ルールやマナーを守る」「積極性」での学科差が大きく、クラスで特徴があることが予想できる。

自分は「ルールやマナーを守って明るく過ごしている」と 感じている。

- 自分自身に関しては「ルールやマナーを守っている」という回答が62.5%で、「明るい」は55.3%であった。
- その他の項目は、クラスメートほど低くはなかったが、「積極性に欠ける」「熱心に学んでいない」「目標を持っていない」と自己評価していた。

昨年度より、目標を持って積極的に熱心に学んでいると言える。

- 昨年度と比較すると全ての項目でプラスになっており、この点から見ると良い循環になっていると言える。
- 特に3年生が目立っていたが、これは昨年度の3年生(現4年生)の評価の低さと今年度の3年生の評価の高さが相まって、大きな差が生まれているが、今年度の3年生は活発で前向きであると想像できる結果であった。



<クラスメートと自分の学生生活に関するまとめ>

- 基本的には昨年度の傾向と大きく異なることなく、クラスメートは「非常に明るくて思いやりがある」、自分自身は「ルールやマナーを守って明るく過ごしている」という傾向であった。
- ただし、「積極性や熱心さに欠ける」「目標を持っていない」といった点は変わっておらず、何らかの対策が必要である。
- また、他の項目と同様に高学年になるほど「熱心さ」や「積極性」が下がっていくという大きな傾向は見られるが、昨年度との比較を分析すると、クラスや学年の雰囲気によって決定づけられ、学年が変わっても大きな変動がない項目があることも確認できた。
- ここで設定しているクラスメートと自分に関する項目は、クラスの雰囲気や自分の取り組み方はある程度見えてくるものの、性格に関する設問や質問しても改善しようがない設問が混在している。来年度には性格的なものは除いて、取り組み姿勢として他の分野と統合するなどの見直しを考えても良いと思われる。

■人材の能力に関するまとめ

学生自身は「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」があり、「国際的コミュニケーション能力」「実践的な力」が欠けていると感じている。

- 上記の通り、学生自身の自己評価では「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」の3点に関しては比較的自信を持っているようであった。
- 自信を持っていない面は多かったが、「国際的なコミュニケーション能力」「実践的・応用的な技術や知識」「専門分野の知識や技術」「リーダーシップ」「自己実現を目指す姿勢」などが欠けていると感じていた。

社会ニーズから考えると「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」が足りない。

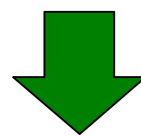
- 教員の「社会が求める能力」と「卒業時点の学生の能力」を比較すると、現在の卒業生には「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」などが不足していると感じていた。
- 逆に、「パソコンやインターネット活用能力」は充分であり、「英語などのコミュニケーション能力」「誠実さ」「思いやりの心」など対人関係能力も備えていると考えている。

KTCの学生に対する教員の評価は高く、「パソコンやインターネット活用能力」は非常に高いと考えている。

- 5年生の現在の自己評価と比べると、教員の卒業生評価は非常に高く、KTCの卒業生に自信を持っていることがうかがえた。
- 特に「パソコンやインターネット活用能力」の評価は突出しており、次いで「誠実さ」「共同共創できるコミュニケーション能力」「思いやりの心」「英語などのコミュニケーション能力」など、対人関係能力にもっと自信を持つべきだと感じていた。

教員の学生能力評価は昨年度と差は少ないが、「英語などのコミュニケーション能力」は上がっていると感じていた。

- 教員評価で昨年度より向上したのは、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「専門分野の知識や技術」「理論的な思考能力」などであり、これらには学科再編なども影響しているのではないかと思われた。
- 逆に評価が下がったのは「自律性」「意見を分かりやすくまとめる能力」「様々な視点から捉える能力」といった点であった。



<人材の能力に関するまとめ>

- 昨年度と同様に教員の学生評価は全体的に高く、教員はKTC卒業生に誇りを持っており、もっと自信を持つべきだと考えているように思われた。
- 様々な側面から見てKTC卒業生の【強み】【弱み】はある程度明確になってきている。【強み】はKTCが教育の特徴としている「パソコンやインターネット活用能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」といったものや、「誠実さ」「思いやりの心」「共同共創できるコミュニケーション能力」といった対人関係に関するものであった。逆に【弱み】は「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」といった、ものの考え方に関する点であった。
- 上記のように、現在の学生の姿はおぼろげに見えてきており、それに対する対応策も順次、出てくるものと思われる。そして、それらの対応策を実施しながら、3年後に予定している企業調査など、外部から卒業生を見た際に、どのようにデータが変化しているのかに着目していくべきだと思われる。

平成16年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成17年6月25日
 - 発行者 金沢工業高等専門学校
 - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
 - 編集 金沢工業大学企画部CS室
-

無断複製厳禁

再生紙を使用しています